高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 112 号
2013.5.15
高原の自然館

苅尾（かりお）とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが, 地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています．

もくじ

おしらせ

ー古川のいきもの観察会について

活動報告

ー山焼き後の雲月山植物観察会
ーカスミサンショウウオの産卵調査
ーサクラソウ観察会

観察会案内

ー龍頭山の野鳥観察会
ーモリアオガエル観察会
ー湿原の昆虫観察会
ー霧ヶ谷湿原の植生調査

おしらせ

●古川のいきもの観察会のおしらせ

広島市を流れる古川で観察会が行われます．ご都合のつく方は是非ご参加ください．

開催日時：2013 年 6 月 9 日（日）9:00 ～ 12:30
（8:30 より受付開始）
集合場所：古川（安佐南区東原の太田川緑地内の公園）
定員：30 名（小学生以下は保護者同伴）
持ち物：雨具，屋外で動きやすい服装，川に入る時の靴など
お問い合わせ・お申し込み：
ひろしま NPO センター　担当：樽山（たるやま）
Tel：082-511--3180 Fax：082-511-3179
E-mail：info@npoc.or.jp
その他：5 月 31 日（金）までに希望者全員の氏名，連絡先を上記の宛先にご連絡ください．参加者には前日までに参加表や案内などを送付します．

観　察　会　報　告

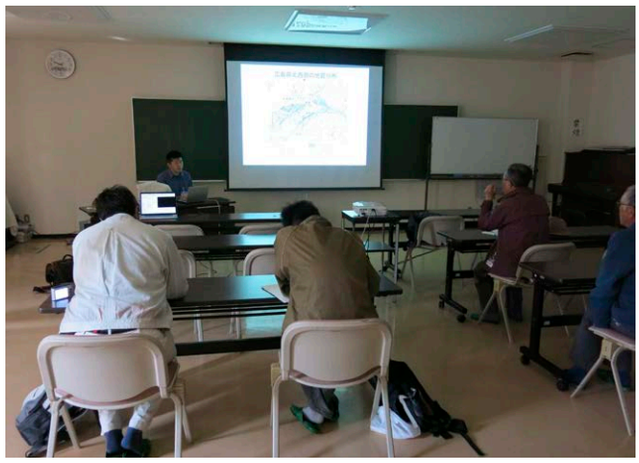
● 山焼き後の雲月山植物観察会

開催日時：2013 年 4 月 27 日（日）9:30
講師：大竹邦暁・白川勝信

気持ちよく晴れた絶好の山歩き日和の中，山焼き後の雲月山植物観察会が行われました．今回の講師は大竹先生と白川学芸員です．7 名の方が芸北文化ホールに集合し，雲月山について座学を受けました．大竹先生からは，雲月山や西中国山地の地質を，白川学芸員からは雲月山に生息する動植物についてお話をしていただきました．

座学の後は，車で移動し雲月山を歩きます．山焼きを行っている雲月山では，様々な草原性の植物を見ることができます．歩き始めて間もなく，小さな白い花が密集して咲くセンボンヤリ，春先の地面に目立つ黄色い花をつけるキジムシロ，晴れた日にだけ花を咲かせるフデリンドウを見つけることができました．尾根伝いを歩いていると，大竹先生が「道の左右のササの長さに注目してください」と言われました．「山焼きをしている側はササが低くなっています．草刈りや山焼きをすることで，植物の競争が一度リセットされ，背丈の低い植物も競争に参加できるようになります」と解説されました．

昼食をとり，登った時とは別のルートで山を下りました．山の等高線に沿う形で道がつくられており，目線と同じ高さで，植物を観察できます．マツムシソウの根生葉や，船のイカリに似た花を咲かせるコイカリソウなどが見られました．登り始めた場所からは，少し下ったところにある別の駐車場に着き，そこからは車道を歩いて戻ります．車道沿いでは，ナガバモミジイチゴ，アカモノなど，登山道とは違った植物を楽しめました．暖かい日差しと，色とりどりに咲く植物に，春がきたことを強く感じる観察会となりました．今年は残念ながら積雪のため山焼きは中止となりました．来年こそは火が入るといいですね．［ありみつまさかず］



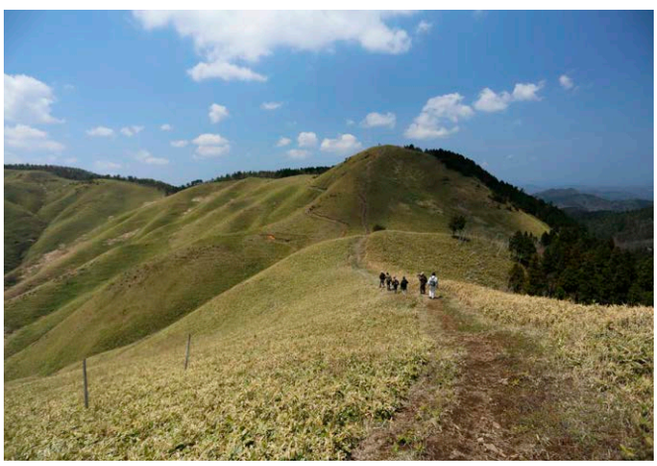
広島県の地質の分布について解説される大竹先生．

尾根を目指して登る．途中でオヤマボクチを見つけた．

晴れた日に咲くフデリンドウ．同じ時期に咲くハルリンドウとは，根生葉の有無で見分ける．

小さくても目立つ黄色の花を咲かせるキジムシロ.

雲月山の貴重な自然や景観を守る取り組みについて解説する白川学芸員.



尾根伝いを歩く，柔らかい日差しと優しく吹く風が，足取りを軽くする.

日向に出ていたシマヘビの幼蛇（ようだ）.

トキワイカリソウの変種のコイカリソウ．船のイカリに似ているとこからこの名前がついた.

【みなさんの印象に残った物】

「生態系サービスの必要性」「地形が印象的，スミレの種類が多かった．牛の歩いた道がおもしろかった」「花の数（種類）が多かったこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「参加者同士意見を交わしながら観察できたのが良かった．生活と自然とのつながりが意識でき楽しみながら学べました」「地質の説明があって，植物の説明がありよくわかった．山焼がどのような効果をもたらしているのかがよくわかった」「人数が少なめの分，くわしく教えていただき，楽しかったです」

観　察　会　報　告

● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2013 年 4 月 29 日（月・祝）9:30
講師：内藤順一

毎年，霧ヶ谷湿原で行われているカスミサンショウウオの産卵調査に，9 名の参加者が高原の自然館に集合しました．

最初に館内で講師である内藤先生が，北広島町に生息するサンショウウオの種類や，今回調査するカスミサンショウウオの生態，これまでの調査見つかった卵塊の場所などを解説されました．卵塊の数を調べると，それを産みに来た親の数も分かり，産卵場所を記録することで湿原がどのように変化しているのかもわかるようになる，とカスミサンショウウオが湿原の指標を表すいきものであることもわかりました．

解説の後は，調査に入ります．手順としては，水の流れがほとんどなく，少し深い水の溜まりを探すことから始めました．卵塊や成体を発見したら場所と数，卵塊なら中の胚の数と成長具合も調べて記録します．今回は 2 班に分かれて，霧ヶ谷湿原へ向かいました．私は内藤先生の班で，川の上流側を調査することになりました．調査する場所は，車道の近くのカンボクが立ち並ぶ周辺，川を渡った木道付近，そこから奥に進んだ山際の 3 ヶ所です．カンボクの周りでは見つけることができませんでしたが，木道付近と山際では卵塊を見つけることができました．どちらも卵塊を新しい場所で発見し，とくに山際に関しては「前回の調査ではここよりも木道に近い場所で卵塊が見つかり，ここでは見つからなかった，今回はその逆が起こっている．より適する場所が山際近くにできたのでそこで産卵するようになったのかもしれない」と内藤先生は話されました．カスミサンショウウオ以外にも色々なカエルの卵塊や成体を見つけることができ，卵塊の数や胚の成長具合を同様に記録していきました．

変わらないように見えて，少しずつ変わっていく霧ヶ谷湿原を，肌で触れられた産卵調査となりました．［ありみつまさかず］

自然館内で座学中，カスミサンショウウオの個体毎の違いを写真で教えていただいた．

調査開始．深すぎず浅すぎず，タカハヤなどがいないところを探す．

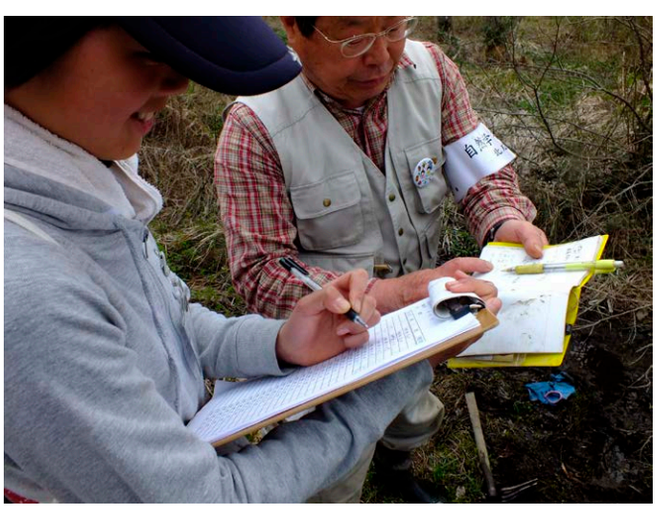
アザミの中でじっとしていたアマガエル．

－ 4 －

ここはどうだろう・・・？

成体も見つかった．産卵してから移動したのか，同じ溜まりの中では卵塊が見つからなかった

カスミサンショウウオの卵塊を発見！２対１組で産みつけられているのが特徴.



地図を確認しながら，場所と胚の数，成長具合を記入する.

【みなさんの印象に残った物】

「カスミサンショウウオの親が見れたこと」「卵の中で幼生が育っていて，ちょうど生まれてきたのでおどろきました」「一番最初に卵塊を見つけたこと．あの“ムニョッ”とした感覚は忘れられないですね」「全員が卵塊を発見できた事．イバラの多さ」「落ち葉の小さな水たまりに，沢山卵？幼生が見つかったのでおどろきました．同じ所に数匹分のたまごがあるので，場所の好みが同じなんだなーと実感しました」「カスミサンショウウオをさわったこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「探すのが楽しかったし，色んな生き物が見れて楽しかった」「普段は入れない所を歩いて貴重な体験でした．ありがとうございました．毎年の調査で，産卵場所が広がっていることがわかり，研究の大切さを感じました.」「イバラに手こずりましたが，2 時間，充実した時間が過ごせました．ありがとうございました」「今年は発生が早く，親個体が見れないと思ったが，親が見れてよかった」「イバラに刺されて痛かったです．貴重な体験ができて，とても楽しかったです」「おもしろかったからまたいきたい」

観　察　会　報　告

● サクラソウ観察会

開催日時：2013 年 5 月 6 日（日）9:30
講師：暮町昌保・下杉孝・白川勝信

遅咲きの桜の花が散る中，美和東文化センターに 10 名が集まりました．今回は，美和東文化センター近くの休耕田 4a に栽培されているサクラソウと「美和のサクラソウ群落（町天然記念物）」と名付けられた北広島町枕地区，熊城山の山麓の自生地での観察会です．

観察会に先立ち，美和東文化センターで事前の学習が行われました．最初に高原の自然館の白川学芸員から，美和のサクラソウについて次のような説明がありました．日本のサクラソウは氷河期，大陸と日本が陸続きの時に，中国大陸から日本にたどりつき，北海道から九州にまで分布し，その土地の環境に適したものが自生している．筑波大学の本城正憲さんが全国の生育地の葉緑体 DNA 変異を調査した結果，美和のサクラソウは本来の自生であることが分かった．一方，八幡地区のサクラソウは，埼玉県のサクラソウ集団から見いだされたものと同じ遺伝子タイプで，鳥取県日南町を経て八幡に持ち込まれた可能性がある，とのお話でした．

続いて，自生地の保護活動をしている地元溝口地区の「サクラソウを育てる会」代表の下杉より次のような報告をしました．今から４０年前に自生地を発見し，以降保護活動を続けている．サクラソウの自生地の中を町道が通ることになったため，町に保護柵を設けてもらった。2000 年に「サクラソウを育てる会」を設立，自生地の草刈や美和小学校児童と連携による観察など行っている．また，溝口地区をサクラソウの里にすることにし，2000 年に八幡のサクラソウをバイオ技術で増殖したものを美和東文化センター近くの休耕田に約 1000 本植え付けて管理している．自生地のサクラソウが系統的に見ると貴重な集団であることが判明し，栽培地のサクラソウとの交雑が危惧されるところとなった．当初，栽培したものは各家庭に配り，サクラソウの里づくりを目指していたが，急遽変更し栽培地のサクラソウの持ち出しを禁止，自生地のサクラソウと交雑を避けるよう配意している，といった保全活動の現状を話しました．

次に植物に詳しい暮町先生が白色のサクラソウを持ってこられ，栽培種の話をされました，江戸時代に，サクラソウの栽培ブームがあり様々な品種が作り出されており，この白花のサクラソウは三倍体で一般に，三倍体植物は不稔性で種をつけないので交雑しないとのことでした．

学習の後は，現地に移動しサクラソウの観察をしました．最初に栽培地の観察です．花は最盛期を迎え，よく咲いていました．花弁は細めで花の色は濃いさくら色で茎の長さも一定でクローンの特質が一見して分かりました．続いて自生地に移動，小川沿いの少し湿り気のある場所の柵内に咲いていました．花の色も淡いピンクや紫など様々で，花弁の形も切れ込みの深いものやほとんど切れ込みのないもの，花弁がラメを散らしたように光るものや茎の長短，開花時期の違うものなどを見ることができました．白川学芸員の話によると 14 種類くらいあると思われるとのことでした，

参加者は，それぞれ写真におさめたり，双眼鏡で眺めたりしながら五月晴れの朝の一時を楽しみました．［ しもすぎ たかし ］

美和東文化センターで事前学習を行う．美和地区のサクラソウの歴史を話す白川学芸員．

― 6 ―

自生地の保護活動を続ける下杉さんから，保護活動の現状を聞かせていただいた．

自生地のサクラソウ．花の白くかすれた部分は，トラマルハナバチの足跡だそう．

栽培地で花を咲かせるサクラソウ．遺伝子の違いからか，乾いた場所でも育つ．

暮町先生からは，栽培種のサクラソウについてお話を頂いた．

【みなさんの印象に残った物】

「多様なサクラソウの花」「少し自生地が小さくなったのでは」「ミツバチの足跡」「花の時期が丁度よかった」「さくら草の色ちがいが判明（少しづつちがう）が良く分かったこと」「サクラソウのＹタイプ」「管理されるのが大変だと強く感じた」「サクラソウの遺伝子とからめた話が興味深かった．その知識で自生地の花を見ると，よく花の違いがどのようにして生じたか，おもしろかった」「サクラソウの自生地で個体差がよくわかりました」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「1 種類の植物をじっくりながめていろいろなことがわかった」「がんばって保全しましょう」「サクラソウとトラマルハナバチとモグラやネズミの穴の話がとても好きでした」「皆さん熱心に話を聞いて下さりありがたく思いました．天候に恵まれた」「双眼鏡でマルハナバチ？足跡が自然だとわかった」「同じＹタイプでもいろいろ額があるのですネ！」「この自然（サクラソウ）が残っていくことを願う」「短時間ではあったけど，内容が濃かった」「サクラソウの受粉にハチが必要でそのハチが住むためにモグラの穴が必要といった自然界の連鎖がこの小さな空間でもあることがよくわかりました」

観　察　会　案　内

観察会に参加される時には，次のようなものを持参してください．カメラ，双眼鏡，ルーペ，図鑑などもあれば，楽しいと思います．

基本セット：山を歩ける服装，雨具，飲み物，おやつ，筆記用具，メモ帳
作業セット：作業ができる服装，長靴，軍手，雨合羽，飲み物，おやつ

● 龍頭山の野鳥観察会

開催日時：2013 年 6 月 9 日（日）6:00
集合場所：豊平どんぐり村
講師：上野吉雄
準備：基本セット，双眼鏡，あればフィールドスコープ
定員数：30 名
参加費：一般 =300 円
　　賛助会員 =100 円
　　正会員・中学生以下 = 無料

豊平の龍頭山で野鳥観察をします．クロツグミなどの夏鳥や，シジュウカラなどの留鳥，アカショウビン，サンコウチョウなどの姿も見られるかも．また，コサメビタキなど，里山にやってくる夏鳥に出会えることもあります．

● モリアオガエル観察会

開催日時：2013 年 6 月 15 日（土）9:30
集合場所：原東生活改善センター
講師：内藤順一
準備：基本セット，双眼鏡・雨具
定員数：30 名
参加費：一般 =300 円
　　賛助会員 =100 円
　　正会員・中学生以下 = 無料

北広島町の中で，最大の生息地である豊平上石地区の農業用ため池では，毎年，150~200 個の卵塊が確認されています．なかなか見ることができないモリアオガエルですが，メスや卵塊は目の前で見ることができます．産卵中の個体も観察することができるかもしれませんよ．

● 湿原の昆虫観察会

開催日時：2013 年 6 月 22 日（土）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・松田賢
準備：基本セット，虫かご，網
定員数：30 名
参加費：一般 =300 円
　　賛助会員 =100 円
　　正会員・中学生以下 = 無料

霧ヶ谷湿原の木道を歩き，そこで見つけた昆虫の観察会を行います．昆虫の名前や生活史，生態など専門家の先生から詳しい解説があります．また植物と昆虫の関係のお話や，新しいいきものとの出会いもあるかもしれません．採集・観察するための網やかごをお持ちください．

●霧ヶ谷湿原の植生調査 夏

開催日時：2013 年 6 月 23 日（日）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信・和田秀次
準備：作業セット
定員数：30 名
参加費：無料

自然再生事業地である霧ヶ谷湿原の植生を調査します．この調査を毎年夏・秋に行なうことにより，植生の変化を知ることができます．調査は専門家の講師と一緒に行ないますので，初心者でも参加できます．また今までの調査でわかった霧ヶ谷湿原の植生や，事業の解説も聞くことができます．

コブシやサクラが花期を終え，葉を落としていた木々も少しずつ若葉を増やしています．ほんのりと白い新緑は，夏の深緑とは違った美しさが感じられます．苅尾に登ってみると，ミヤマカタバミやチャルメルソウが花を咲かせていました．暖かくなり，出掛けるには良い季節，八幡に訪れてみてはいかがですか（ありみつ）

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）
〒 731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/
staff@shizenkan.info